

## 50歳を超えてからミニトマト農家に、まだまだ修行中

矢田 朗 さん	1964年生まれ	受講研修：平成28年度就農支援センター社会人課程
	就農年月：平成29年5月	就農前職業：電機メーカー（開発職）
	就農地：日高郡印南町	出身地：和歌山市

### ●農業を始めようとしたきっかけ

季節を感じる1次産業をやってみたくて思っていたが、林業や鉱業は、仕事内容が想像できず、漁業は、危険な仕事のイメージがありました。その中で、農業についてはなんとかできるかもと興味を持ち、妻の「やってみたら？」の一言も後押しとなり、就農を決めました。

### ●就農準備

#### ・農地の確保

ミニトマトの「優糖星」は、印南町かみなべ町でしか栽培できないため、就農支援センターの研修中に、その地域内の農地をセンター職員と一緒に探して決めました。

#### ・住宅の確保

移住当初は、賃貸物件に入居、その後、栽培地域と妻の通勤距離を考慮し、空き家バンクや役場を通じ、中古物件を探しましたが、駐車場や倉庫スペースがない、状態不良など、条件に合う物件が見つかりませんでした。結局、不動産屋を通じ、今の土地に移住しました。

#### ・生活を支えた補助的収入

前職の貯金、妻の給与

### ●今後の農業経営の目標

高品質なミニトマトを栽培できるよう品質の向上と、作業の効率化を心がけています。その上で、台風に負けないような栽培施設の確保を行いつつ、ミニトマトの栽培規模の拡大を行いたい。また、農閑期となる夏場に、収穫可能な露地の果樹を選定し、経営の安定化と収益の向上を図りたいです。



### ●新規就農を目指す方へのアドバイス

農業は誰でも参入出来ますが、ベテラン農家の様に作物を安定生産するには時間が必要です。そして、作物は販売しないとお金が入らないほか、就農時の初期費用は大きく、生活費のストックも考えると、資金はかなり必要になります。また、私の場合、元々就農地域の出身ではないため、つてなどもないことから農地確保は苦労したほか、資材置き場や出荷調整を行うための倉庫の確保もあわせて必要でした。そのため、農地や物件の情報収集・探索にかかる時間や労力を念頭に入れつつ、人の協力が欠かせないと思います。

その他、同じ目的を持った仲間がいると心強いので、各種研修に参加することをオススメします。



### ■農業経営の経過

	就農1年目	現在(3年目)
作 目	①ミニトマト(優糖星) ②ブロッコリー	①ミニトマト(優糖星) ②ブロッコリー
農地面積	①9.5a ②5.5a	①9.5a ②5.5a

労働力

1人

1人